

【科目情報】

授業コード	1FCB503010	科目ナンバリング	FCALAW83003-J1
授業科目名	法社会学		
担当教員氏名	阿部 昌樹		
開講年度・学期	2022年度後期	曜日・時限	月曜5限
授業形態	講義		
単位数	2単位		

【シラバス情報】

授業概要	この授業は講義形態により行われる。この授業では、経験的社会科学としての法社会学という学問の性格についての基礎的な理解を共有したうえで、その法社会学の分野において国内外で蓄積されてきた法専門職研究の成果に依拠して、我が国における弁護士および弁護士実務の歴史と現状について、史料と最新のデータを活用して概観するとともに、法曹人口が大幅に増加するこれからの時代における弁護士の職業的活動の変容可能性とその方向を、社会科学的な観点から検討する。
到達目標	以下のような能力を身に付けることを目標とする。 ①我が国の弁護士の現状はどのようなものであり、そうした現状がどのような歴史的経緯によって形成されてきたのかを説明するために必要な既存の史料やデータを収集することができ、かつ、それらの史料やデータに基づいて、首尾一貫した説明を行うことができる。

授業回	各回の授業内容	事前・事後学習の内容
第1回	法社会学の学問的特質と法社会学における弁護士論の系譜	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第2回	法曹養成制度および法専門職の歴史——近代的法曹養成制度の跛行的発展とその帰結	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第3回	弁護士活動の理念——プロフェッション・モデルの妥当性をめぐって	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第4回	弁護士人口論／反規制緩和論——弁護士大幅増員への賛否とその理由	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第5回	弁護士偏在問題——弁護士の大都市集中と弁護士過疎	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第6回	弁護士事務所の形態——共同化／大規模化の可能性とその問題点	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第7回	弁護士会の役割——全員加盟制組織の対外的機能と対内的機能	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理

第8回	弁護士と隣接職種との関係——法関連サービスの提供をめぐる対抗と協働	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第9回	弁護士・依頼者関係——法の論理と生活世界の論理との相克およびミクロな権力の作動	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第10回	法律相談と弁護士——法の素人の弁護士とのファースト・コンタクト	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第11回	A D R と 弁 護 士 —— A D R の 特 質 お よ び A D R へ の 弁 護 士 関 与 の 実 態 と 課 題	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第12回	民事訴訟と弁護士——民事訴訟の特質および民事訴訟への弁護士関与の実態と課題	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第13回	刑事事件と弁護士——我が国における刑事弁護の実態と裁判員裁判のインパクト	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第14回	企業法務と弁護士——企業関連弁護士業務の発展可能性とインハウス・ロイヤーの増加	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第15回	弁護士の公益活動——公益活動の実態と義務化の可能性およびその根拠	事前学習：指定文献の精読、疑問点の抽出 事後学習：授業内容の整理
第16回	期末試験	

<b>成績評価方法</b>	<p>相対評価</p> <p>第 8 回および第 15 回の授業時間中に実施する小テストと期末試験による。小テストも期末試験も記述式試験とする。2 回の小テストはいずれも 10 点満点、期末試験は 80 点満点で採点し、それらの得点の合計が 60 点以上であれば合格とする。第 1 回の小テストは第 1 回から第 8 回までの授業の理解度を試すものであり、第 2 回の小テストは第 9 回から第 15 回までの授業の理解度を試すものである。それに対して、期末試験は、上記の到達目標にどの程度達しているかを測るものであり、授業全体をとおして学んだことを、応用する力が試されることになる。</p>
<b>履修上の注意</b>	<p>各回の授業は、受講者全員があらかじめ指定文献を精読し、その内容をおおむね理解していることを前提として、質疑応答を通してその理解内容を確認し、深めていくかたちで進めていく。</p>
<b>教科書</b>	<p>特定の教科書は使用しない。指定文献を複写し、製本したものを、授業開始前に受講者全員に配布する。</p> <p>また、それに加えて、各回の授業の際に、統計データ等の追加的な資料を適宜配付する。</p>

<p>参考文献</p>	<p>参考文献は授業中にも適宜指示するが、さしあたり以下のものを挙げておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐藤岩夫・阿部昌樹『スタンダード法社会学』（北大路書房・2022年）</li> <li>・村山眞維・濱野亮『法社会学〔第3版〕』（有斐閣・2019年）</li> <li>・宮澤節生・武蔵勝宏・上石圭一・菅野昌史・大塚浩・平山真理『ブリッジブック法システム入門〔第4版〕』（信山社・2018年）</li> <li>・木佐茂男・宮澤節生・佐藤鉄男・川嶋四郎・水谷規男・上石圭一『テキストブック現代司法〔第6版〕』（日本評論社・2015年）</li> <li>・六本佳平『日本の法と社会』（有斐閣・2004年）</li> </ul>
<p>その他</p>	